

目黒巻を使った防災授業の指導要領

■ 事前準備

⇒ 座席は班形式での配置をお願いします。

⇒ 目黒巻（授業用）と目黒巻説明用紙（生徒用）を配布してください。

記入例は2種類あります。必要に応じて生徒に配付してください。

■ 全体構成

（1）説明：目黒巻とは

- ・ 東京大学の目黒先生が考えた手法であること、完成図が巻物のようにひとつの流れになることから「目黒巻き」と言います。
- ・ 災害後の状況を想像することで、災害前にどんなことが必要かを考えることが目的です。
- ・ 実際に事前に記入されている場合は、先生方が記入して感じたことも伝えてあげてください。

（2）記入の時間

- ・ まず、氏名と設定を記入させます。設定は変えても構いません。
- ・ 記入は個人で行わせ、最初は班の中でお互いに話し合わないにします（話し合いは後ほど行うため）。
- ・ 記入時間は『話し合い（10分）と補足説明（3分）』程度を残した時間で終了します。

《補足 ”目黒巻きを書ける生徒と書けない生徒” 》

目黒巻きが書けない生徒は、面倒で書きたくない場合もありますが、真剣に考えすぎて（選択肢が増えすぎてしまうことで）書けなくなっている場合があります。もし、真っ白なままになってしまう生徒がいたら、適宜補助をしていただければと思います。

（3）話し合いの時間

- ・ 目黒巻き説明書に沿って、班の中でお互いに目黒巻きを見せ合って、話し合いをします。
- ・ 「書けていない」人を責めたり、明らかにおかしいことを書いている生徒がいても、批判したりしないよう、指導してください。
- ・ 気がついた点は「本当にそうなると思うか」「どうやったらそれが解決できるか」「どうしたら防げるか」という話をするよう、指導してください。

（4）まとめの時間（伝えていただきたいこと）

- ◆ 何か問題が起きたら、どうすれば解決できるか考えることが対策につながる。
- ◆ 設定条件を変えて、繰り返し行うことが災害を想像する力を高めてくれる。
- ◆ 発災後について考えたら、発災前にできることも併せて考えて、普段の防災に活かしていく。→ 消防署の講演や各種訓練、体験学習と併用すると効果的。
- ◆ その他、先生方が体験学習等を通じて感じたことなどもお伝えください。
目黒巻きのみ、回収してください。コピーをして後日返却します。